

令和2年9月

普及活動報告



異なるは種日の定点を調査



中耕培土された小豆ほ場

今年産の小豆の生育は？～小豆定点調査を開始～

(全域：8/31・9/1)

管内の主要作物である黒大豆と小豆の生育・収量を把握するため、毎年定点調査を行っています。7月までの黒大豆調査に加え、今回は小豆について、2班に分かれ、1地点当たり10株を抽出し、主茎長、主茎節数と1次分枝数を調査しました。

梅雨明けが遅く、は種が遅れ、加えて干ばつにより生育が同様に遅れた昨年よりも小さいものの、全般的に生育状況は良好でした。昨年は9月以降の天候に恵まれ豊作年になりましたので、今後の天候に期待し、病虫害の発生状況に注意していきます。

場 所 管内6地点
出席者数 7名

南丹管内 令和元年産小豆栽培面積：138.2ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

ビール大麦の品種切替に係る検討会

(亀岡市：2日)



品種切替に向け生産者（農家組合等代表）と協議

本年秋のは種をもって種子生産県からの供給が終了する現行品種「サチホゴールドデン」については、新たな品種「ニューサチホゴールドデン」への切替が必要となっています。そのため、同品種を推奨品種に指定するための現地栽培試験の実施について、全農京都から麦生産者に要請されました。また、普及センターからは令和3年産の栽培技術の要点について説明しました。

普及センターは、品種切替に向けた現地栽培試験について農林センター作物部と連携して栽培指導や現地調査を行い、「ニューサチホゴールドデン」への品種切替が円滑に進むよう支援していきます。

場 所 JA京都亀岡川東支店

出席者数 20名

令和2年産 ビール大麦栽培面積（亀岡市）：約93.8ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

ジャンボタニシ勉強会で講演 ～亀岡市 農業委員会～

(亀岡市：7日)

亀岡市ではジャンボタニシによる水稻被害が拡大しているため、農業委員会の要請を受け、普及センターの職員が勉強会で講演しました。

今回は、ジャンボタニシによる被害を回避するための田植え方法、春・夏・秋の対処方法に加えて、生態や南米産の動物が定着に至った経過などを網羅した講習を行いました。

「石灰窒素による防除は費用がかかる」「個人でできることは限りがあるので地域で取り組むことも大切」「国も対策にもっと力を入れるべき」などの声が聞かれました。普及センターは引き続きジャンボタニシによる被害回避に努めていきます。

場 所 亀岡市役所
出席者数 26名

亀岡市のジャンボタニシ発生水田面積288ha（総水田面積1,520haの18.9%）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告



刈り匂を迎えた新品種



調査で特性を見極める

良質米生産に期待～水稲新品種(北陸246号)試験栽培の収穫期調査を実施～

(南丹市：10日)

南丹市美山町で現地実証栽培した水稲新品種候補(北陸246号)の収穫期調査を行いました。

5月24日に田植えした北陸246号は順調に生育し、8月12日に出穂したのち収穫期を迎えました。9月10日に収穫期調査を実施したところ、平均で稈長65.9cm、穂長19.1cm、穂数322本/m²でした。

早植え栽培した隣の田のコシヒカリと比べ、10日遅い収穫期ながらも遜色のない生育となり、農家は食味の結果に期待しています。

普及センターは今後、関係機関と連携して、収量調査や食味調査を進めていきます。

場 所 美山町鶴ヶ岡

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

日吉町特産「壬生菜」のは種を体験 ～殿田小学校の5年生が実習～

(南丹市：15日)



壬生菜について説明

南丹市日吉町の殿田小学校5年生が、町特産の「壬生菜」のは種を体験しました。従来は生産農家のハウスで行っていましたが、今年はコロナ禍の影響で、殿田小学校の畑での実習になりました。生産農家が講師となり、町特産の「壬生菜」について、シーダーテープを見せながら説明され、児童一人一人がは種機を使った作業を体験しました。

こども達は、壬生菜の種子を見て「小さい！」と驚きの声を上げたり、は種機が重く、ふらつきながらも一生懸命は種作業を行いました。普及センターは、今後も食育活動を支援していきます。



シーダーは種機を使って全員がは種を体験

場 所 日吉町殿田
出席者数 19名

南丹市日吉町 令和元年度壬生菜部会員21戸、生産量43.7t、栽培面積（ハウス）240a

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

安心・安全な直売所向け野菜生産を目指して～「味夢の里出荷者協議会」が栽培研修会を開催～

(京丹波町：15日)



説明に聞き入る生産者

冬春野菜の施肥設計と農薬の適正使用をテーマに研修会が開催されました。

普及センターから、代表的な野菜を例に、施肥設計や肥料の種類と使い方、局所施肥や緩効性肥料等による効率的な施肥方法等について説明しました。また、昨年度に一部改正された「農薬登録における適用作物分類表」の変更点について情報提供を行いました。

参加者からは、堆きゅう肥を多く施用した場合の成分計算や連作障害の総合的な回避対策等について質問が出されました。今後も普及センターは安心・安全な直売所向け野菜づくりを支援していきます。

場 所 京丹波味夢の里
出席者数 31名

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

京丹波町ケーブルテレビで小豆の害虫対策を呼び掛け

(京丹波町：17日)



雨のため室内で撮影

普及センターでは、コロナ禍で生産者を集めた研修会等が開催しにくい状況を踏まえ、町内に広く発信できるケーブルテレビを通じて、特産物栽培のポイント等についての周知に取り組んでいます。

今回は、普及員が小豆の収量確保のため重要となる各種害虫の発生状況や被害の特徴、対策について説明し、収録を行いました。

放送日は9月19日（土）から数日間を予定しており、京丹波町全域の住民の方々に見ていただけます。今後は黒大豆の安定生産をテーマにした収録・放送も予定しており、より分かりやすい内容で発信できるよう心がけていきます。



放送で使用了した写真

場 所 京丹波町情報センター
出席者数 4名

令和2年度小豆栽培予定面積（京丹波町）：26.0ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年9月

普及活動報告

新規就農者のナス栽培ほ場互見会・出荷サンプル研修会を開催

(亀岡市：18日)



ナス栽培ほ場を視察



出荷サンプルの互見会

ナス栽培を重点に取り組んでいる新規就農者のほ場2箇所を巡回し、品種の特性や資材の設置の仕方など、意見交換をして新たな栽培技術を身に付けました。また、各自が出荷しているサンプルを持ち寄り、商品としての比較や販売戦略について互いに学びました。普及センターからは次年に向けて、特に生育初期段階の作業の重要性について説明しました。

参加者からは「新規就農者のほ場を視察でき、新たな技術も知ることができた」「工夫しながら栽培している」などの声があり、今後も技術研鑽の機会を設けることを確認しました。普及センターは、今回の反省点を踏まえ、次年に活かせるよう関係機関と連携して支援していきます。

場 所 JA京都亀岡川東支店及び
亀岡市馬路町ほ場ほか

出席者数 11名

亀岡市内新規就農者数：38名

京都府南丹農業改良普及センター